



企画・制作
国境なき医師団日本
朝日新聞社広告局

広告特集

Feature

国境なき医師団の証言活動

【座談会】

辻坂文子（アドミニストレーター）

臼井律郎（外科医）

エリック・ウアネス（MSF日本事務局長）

発刊の辞

人間としての感情が活動を支え、証言させる

Frontline

国境を超えて命と向き合う

【フロントライン】

Vol.01

March 18, 2012

医師たちが 沈黙を破った日。

複雑化する世界情勢の中、人道援助を取り巻く状況は混迷を深めています。

国境なき医師団（MSF）は、「医」の提供のみを目的として、

命の危機にさらされる人びとのもとに赴くとともに、

「必要な医療がない」「顧みられない病がある」「医療だけでは救えない」

惨状を目の当たりにして、国際社会に向かって証言を続けてきました。

医師たちが沈黙を破らなければならない現実があります。



1980年、MSFはタイ・カンボジア国境で「カンボジアの生存のための行進」を展開し、カンボジアの親ベトナム政権が行う、人道援助に対する制限に抗議した。

© Parice Cotteau / MSF

Frontline

Vol.01 March 18, 2012



1971年、国境なき医師団創設。

2004年からスーダン・ダルフル紛争による国内避難民を援助。

国境なき医師団とは

国境なき医師団 (MSF) は、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体。紛争地や自然災害の被災地、貧困などで医療が得られない地域で医療を提供。1999年、28年間の人道援助活動が評価され、ノーベル平和賞を受賞。世界60の国と地域で3万1500人以上のスタッフが活動(2010年実績)。

人の命を救う。
医療だけでは
不可能な時がある。緊急事態の現場で
私たちが行うこと

ウアネス われわれ国境なき医師団 (MSF) の活動は、ひと言で表すと、医療分野における緊急時の人道援助ということになります。非常に高い医療ニーズを抱えつつも他の援助が入らないような土地に赴き、命の危機に瀕している人びとに、できるだけ早く医療を提供します。たとえば、2003年はイラク戦争に人びとの関心が集中しましたが、他の紛争地帯や災害現場にも大きなニーズがありました。MSFはメディアや他の組織がカバーしない場所に忘れられている危機がないかを見いだそうとしています。内乱や貧困で緊急事態が長く続き、数十年活動している場所もあります。

臼井 活動の決定においては、現地からの報告を最重要視します。死亡率や負傷者数をモニタリングして医療ニーズを把握し、常にフィールドに根ざした活動をしています。新規立ち上げも、継続の決定も同様です。

ウアネス 緊急時でもニーズをいち早く把握し、対応するために、48時間以内にスタッフが現地入りできる体制もっています。物資のストックも十分に確保し

ておき、ヨーロッパに3カ所、ドバイに1カ所の物流センターがあり、通関済みの状態になっています。また、30年前から、緊急援助用の医療キットや救援物資のキットも開発しています。

辻坂 2010年、ハイチ大地震後に起きたコレラの大流行に際しては、コレラキットを早急に送り、コレラ治療センターを複数立ち上げました。

ウアネス MSFはこのようにニーズに応じて活動し、どの地域のどのような患者にも無償の医療を提供しています。

辻坂 そして、医療がなく、最も苦しんでいる人びとへのアクセスを確保するためには、公平性・中立性・独立性を保ちながら活動することが不可欠です。政治や宗教にかかわらず、資金的にも

独立していることが、そういった活動を可能にしています。

臼井 2003年のイラク戦争では、米軍からの軍事的エスコートを断りました。MSFが米軍の護衛を引き連れていったら政治的な意味が生まれてしまいます。どちらの側にもつかないという中立性が重要なのです。

沈黙が人びとを苦しめるなら
中立的な立場で証言する

ウアネス 中立性は、MSFが行う証言活動にもかかわってきます。われわれは、現地での活動を通じて目にした非人道的状況について、声をあげます。患者さんの状況を見て、組織のためでも、われわれ自身のためでもなく、現状の打開を呼びかけるために証言活動をするのです。

臼井 2005年にニジェールで急性栄

養失調の深刻な拡大が見られました。ところが、政府はそれを否定していました。われわれは政府に状況を説明して説得し、4〜5ヵ月後に国連事務総長がやって来て、やっと政府は栄養失調を認めました。われわれの証言による働きかけが実を結んだ一例です。

ウアネス ただし、危機的状況を説明するときに「飢餓」や「大量虐殺」という言葉を安易に使わないように気を付けています。たとえば、2011年、ソマリアとその周辺で深刻化した事態を、多くの援助団体やメディアは当初「『アフリカの角』における飢きん」と表現しました。けれど、問題の根幹は、20年以上続く内戦と無政府状態、慢性化した栄養失調、そして援助の欠如といった複合的状況にありました。

臼井 私が活動したブルンジでの例ですが、2002年に薬剤耐性マラリアが発生して、世界保健機関 (WHO) の当時のガイドラインに沿った薬の投与では80%の患者に効果がないとわかり、わ



エリック・ウアネス

活動責任者を経て
MSF日本事務局長

1967年、フランスに生まれる。2002年よりMSFに参加。アフガニスタン、シエラレオネ、コンゴ民主共和国などでMSFの活動責任者を務め、2005年よりMSF日本事務局長。

「証言することはわれわれのDNA」

「医師は虐殺を止められない」

1994年、50〜100万人がルワンダ内戦で虐殺され、MSFは、「医師は虐殺を止められない」とのメッセージを発し、初めて国際社会に武力介入を求めた。ただし、これは例外で、原則としてMSFが武力介入を求めることはない。



2005年、調理不要の栄養治療食導入。



1994年、ルワンダで続く内戦を逃れ、避難民キャンプに到着した市民。

フセイン政権下の窮状

1991年、イラクのクウェート侵攻により勃発した湾岸戦争とそれに続く内乱とで、フセイン政権下のイラク政府軍に追われて難民となったクルド人への援助活動を開始。MSFはイラク北部、トルコ、イランに、輸送機57機で物資2000トン、派遣スタッフ150人を送る、過去最大規模の活動を展開。



2007年、MSFが共同設立した新薬イニシアティブ (DNDi) と企業が、服用が容易で安価なマラリア新薬を共同開発。



1991年、難民となったクルド人への援助を開始。

企画・制作
国境なき医師団日本
朝日新聞社広告局

広告特集

発端はビアフラ内戦

1967年に起きたビアフラ内戦で、国際赤十字の援助活動に参加したフランス人医師たちは赤十字の沈黙の原則を破り、ビアフラ市民へのナイジェリア軍の暴力を公に非難。世界の反響を呼ぶ。「国境なき医師団 (MSF)」は、彼らと他の医師グループ、ジャーナリストたちによって1971年に創設された。



1967年、ビアフラ内戦勃発。



2007年、スリランカ政府軍と「タミル・イーラム解放の虎」の武力衝突による戦禍に苦しむ市民を援助。

援助物資の悪用を告発

1984年、大干ばつと失政から100万人が亡くなったエチオピア飢饉で、MSFは栄養失調治療を行う中、世界中から寄せられた援助物資が、軍事政権により横流しされたり、マラリアのまん延する地域への強制移住の誘導材料に利用されていることを告発。1985年に国外退去を強いられる。



MSFは医療施設への武器持ち込み禁止を掲げる。



エチオピア飢饉に対して、医療物資や食糧などを運ぶMSF。

「議論を重ねて最善と考えうる策を」



辻坂 文子

アドミニストレーター*

愛知県に生まれる。MSF 日本事務局で広報として勤務後、ハイチ、日本、中央アフリカ共和国へアドミニストレーターとして派遣される。
*現地活動の財務・会計・人事管理を担当。

れわれは政府に新薬の使用を求めました。事は簡単ではありませんでしたが、議論を重ねて再度政府に異議を申し立て、結果、正しい判断だと認められ、ブルンジでは法律を変えることができました。また、9.11の後、国連は自衛権行使としての武力行使を容認し、米英軍はアフガニスタンを爆撃しましたが、空爆の最中に市民への人道援助として食糧も投下したため、MSFは爆弾と食糧を並行して投下しないよう強く非難しました。
ウアネス 問題は、食糧が地雷に似た形だったことにもあります。子どもが食べ物が降ってきたと拾いに行くと、実際は爆弾だったりするわけです。だから、断固反対したのです。中立的な立場だから、大国に対しても意見を突きつける

ことができるのです。しかし、政治を変えることは意図していませんし、われわれにその権限はありません。

臼井 一方で、証言活動によって現地で活動できなくなるジレンマもあります。

ウアネス スリランカ内戦では、MSF内でも、市民が犠牲になっている状況を伝えるか否か議論がありました。しかし、証言すれば政府により国外追放を受けることから、いったんは医療提供を選択し、証言しない道を選びました。逆に、北朝鮮では、95年に開始した活動を政府が制限しようとしたため、98年に撤退し、現地の状況を伝えました。このように、いつ、どのような形で証言活動をするのか、活動の継続と非人道的状況についての証言活動のはざまで苦渋の決断を行うこともあります。

辻坂 答えが簡単に出る問題ではありませんが、沈黙がより人びとを苦しめるであろうと判断されるときに、証言活動が必要なのではないでしょうか。

複雑化する国際情勢の中で問われる人道援助のあり方

ウアネス MSFが創設された70年代はマスメディアが急成長した時期でもありました。目にする惨状をより広く伝えていくためにメディアのもつ力は大きく、その状況はいまも同じです。また、こうして証言活動が続けられてきたのは、独立性を保ち、活動の自由を確保していることが大きいですが、組織の中でも自由に議論がなされます。もちろん意見が対立することもあります。

臼井 議論をして試行錯誤する人道援助のパイオニアであろうとしてきました。固定観念をもたずにフレキシブルに、つねに確認しながら活動しています。



臼井 律郎

外科医

1959年、東京都に生まれる。1996年よりMSFに参加、スリランカ、ブルンジ、チャドに派遣される。2005年から2008年までMSF日本会長を務めた。

「時には戦争当事国にも物を言う」



2000年、タイでHIV/エイズとともに生きる人びとに抗レトロウイルス薬 (ARV) 治療を開始。*写真は翌年開始の南アフリカ共和国。



2008年、イスラエルがパレスチナ・ガザ地区へ空爆を開始し、MSFは緊急援助を実施。現在も心理ケア等を継続。



1999年、内戦とNATOの空爆から逃れるコンゴ難民を援助。

「人道的戦争」を否定

セルビア共和国コンゴ自治州で、セルビア政府とアルバニア系住民の内戦が激化し、1999年にNATO軍がセルビアに空爆を開始。民間人にも多くの犠牲者が出たこの空爆をNATOは人道的目的として正当化するが、MSFは「人道的戦争」という発想を批判。難民の援助を行うも、NATO加盟国からの資金提供を拒否。



2010年、パキスタンで大洪水の被災者に緊急援助を行う。



2011年、東日本大震災に際し、緊急援助活動を展開。

発刊の辞 | 『Frontline』発行に寄せて

人間としての感情が 活動を支え、証言させる

活動地に向けて旅立つとき、私たちは最悪の状況を想定しておかなくてはなりません。普段私たちが暮らす快適な社会の中では、これから目にするものに備えることはできないからです。紛争や自然災害、社会から顧みられない病気で亡くなっていく人びとと向き合うことの重さを予測することはできないのです。医療従事者であってもそうでなくとも、自分の目でこのような死を見つめること、その場に立ち会うことは、その後の人生を大きく変える体験となります。

人道援助活動に身をおきながら、私たちは度々、激しい怒りを覚え、衝撃を受け、どうしようもなく悲しく、打ちのめされます。一方で緊張状態を解くために、時には笑いも必要とします。こうしたさまざまな感情は、そこで人びとに起きていることをわが身に引きつけたとき、自然に湧いてくるのです。比べてみているという意味では、窮状にある人びとを救う活動は、とてもエゴイスティックとも言えるでしょう。

翻って、初めて多くの遺体や残虐な行為を目撃したとき、とるべきとされる行動は、その惨状から距離をおき、感情的に反応しないよう努めることです。距離をおくことは、ある面、世界中どここの病院でも不可避で必要なことでしょう。しかし同時に、その状況に涙し、ショックを受け、憤り、かたや笑いを忘れないことで、私たちは活動を続ける精神状態を保てるのだと思います。不当な事態を分析することも可能になります。そして、まさにこのことが、私たちが活動に駆り立て、いま目撃している事態があってはならないことだと証言させるのです。

私たちの活動の目的は医療の提供です。そしてそれは、他者の苦境に対する人間としての感情に支えられています。医師が患者を治療するとき、彼らはその感情をいったん脇において、ただ治療に専念します。けれど、その感情はすぐに姿を現し、緊急期が終わると、患者が経験したことが、私たちが彼らのそばで遭遇したことが何だったのかをあらためて考えるのです。そしてその時、私たちはこの経験を社会のほかの人と共有しなければならないと感じるのです。

『Frontline(フロントライン)』という名前は、私たちが活動を行う第一線を意味します。これから年4回、命の危機にさらされた人びとと向き合う中で私たちが目にしていることを、そして決して成功ばかりではない私たちの試行錯誤をお伝えしていきます。

皆様からの忌憚のないご感想も、お待ちしております。

国境なき医師団日本

■ 医療従事者と非医療従事者、約3万人が、約60の国と地域で活動(2010年実績)。
MSFは本部を持たず、世界25ヵ国にある事務局がネットワークで結ばれている。

国境なき医師団／Médecins Sans Frontières(略称MSF)は、1971年にフランスで設立された非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体。医師、看護師などの医療従事者とアドミニストレーターなどの非医療従事者、のべ6500人の派遣スタッフが、約2万5000人の現地スタッフとともに、約60の国と地域で活動を行う(2010年実績)。

MSFは、「独立・中立・公平」を原則とし、人種や政治、宗教にかかわらず無償で医療を提供する。また、援助活動の現場で虐殺や強制移住などの著しい人権侵害や圧倒的な医療の不足を目の当たりにしたとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言している。

MSF日本は1992年に設立され、2011年までに267人のスタッフを、のべ692回、活動地に派遣。MSF日本の活動資金はすべて、個人を中心とする民間からの寄付金でまかなわれている。

1971-2012 MSFの活動小史

1971 国境なき医師団の創設

ナイジェリアのビアフラ内戦がもたらした市民の窮状を医師たちが国際社会に伝えたことをきっかけに、フランス人医師とジャーナリストがフランスで創設。

1975 初の大規模な難民援助

ボル・ポト政権から逃れるカンボジア市民を援助するため、MSF初の大規模な難民援助活動をカンボジアとタイで開始。

1984 大規模な栄養治療

エチオピアの大干ばつと政府の失策による飢饉で100万人以上が命を落とす。MSFは飢饉に直面した人びとへの大規模な栄養治療プログラムを実施。

1991 過去最大規模の活動

湾岸戦争と内乱で難民となったイラクのクルド人への援助活動を開始。トルコ、イラン、ヨルダンで、物資2000トン、スタッフ150人と、過去最大規模の活動を展開。

1995 虐殺の唯一の証言者に

ボスニア・ヘルツェゴビナの国連保護地域がセルビア人勢力の攻撃を受け、多数の虐殺や虐待、強制移住が起こる。紛争当初から現地で活動していたMSFはその現場を目撃し、報告書等を発表して唯一の証言者となる。

1999 28年間の人道援助活動が評価され、ノーベル平和賞を受賞。授賞式で、ロシア軍によるチェチェン市民への無差別爆撃の停止を訴える。

1999 必須医薬品キャンペーン開始

治療可能な感染症で毎年数百万人が命を失う状況に対し、途上国や貧困層の人びとに適した薬や技術を求める「必須医薬品キャンペーン」を、ノーベル平和賞の賞金をもとに開始。

2003 イラク戦争下で医療機関を支援

バグダッドが米英軍の攻撃を受ける間もMSFは現地にとどまり、病院や診療所の支援活動を行う。また、米英政府に対し、国際人道法にのっとり、イラク国民の医療を保証する義務を遂行するよう要求。

2010 ハイチ大地震とコレラ流行に対応

地震直後から緊急医療活動を開始し、同年10月までに35万人以上を治療。その後コレラ流行のため、50ヵ所にコレラ治療施設を開設し、2011年11月までに約17万人以上を治療。

2011 東日本大震災緊急医療援助

震災の翌日から、医療の届いていない地域で緊急医療援助を開始。医療、心理ケア、物資や通院用バスの提供、仮設住宅・医療施設の建設支援を行う。

2012 シリア政府による医療の悪用を告発

政府は公立病院を監視下に置き、反体制デモの負傷者と治療しようとする医療者を厳しく弾圧。MSFは医療を悪用する行為の即時停止と医療活動の尊重を求める。



Frontline
国境を超えて命と向き合う

【フロントライン】
2012年3月18日発行
第1号

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
www.msf.or.jp
0120-999-199
通話料無料(9:00~19:00/無休)

